

項目 1 学校・学級作り、心身ともに健康な生活

重点目標	○自分で判断できる、他とつながることができる力 ○心身共に健康で幸せな生活を送る力
数値目標	①よりよい行事や、生徒会活動の実現のために、主体的な態度で取り組むことができたと言える生徒を90%以上。（十分できたと言える生徒50%以上） ②目標達成のために、仲間と対話しながら協働的に活動に取り組めたと言える生徒を90%以上。 ③健康で安心して学校生活を送ることができたと言える生徒が90%以上。

1 取り組みの状況

I 生徒の自律した行動の促進

- ・修学旅行では、自分たちで行き先を決め、ルートプランを作成したり、修学旅行の目標やルール決めを行ったりと、行事に向けて主体的に取り組んだ。（4、5月）
- ・合唱祭では、実行委員を中心に、よりよい合唱祭を目指して計画・運営を行った。（5、6月）
- ・異学年交流を活発にするために、前期執行部企画の「新聞文字探し」活動を実施した。体育館で全校生徒が集まり、学年を解いたグループで活動し、交流を深めた。また、学校祭の昼食時には、生徒の発案として座席自由で弁当を食べ、異学年交流を促した。後期執行部も全校企画を計画している。（6、9、2月）
- ・学校祭実行委員会を立ち上げ、文化祭・体育祭の最上位目標を共有し、その達成のために何が必要かを粘り強く話し合い、合意形成する活動を行った。運営組織や内容、時程などについて、生徒が主体となった話し合いを継続して行い、生徒が一から作り上げた学校祭となった。（5～9月）
- ・校則改訂に向けて、縦割り会を行い、安心安全な学校を目指し、見直したい校則について議論した。さらに、出てきた意見をもとにリーダー会を開き、意見をまとめて改訂案を作った。（12月～3月）



【学校祭実行委員会の様子】

II 快適で温かみのある環境づくり

- ・学級の諸問題を解決するために学級会を各学期中に複数回開き、課題を共有し、その解決のための具体的な改善策を考え、それぞれのクラスで実行した。（5月～12月、3学期も実施予定）
例）授業の活性化に向けて、机の配置を工夫（教科ごとに配置を変える、ペアで机をくっつけるなど）
課題の提出状況改善に向け、週目標を設定、帰りの会で次の日の課題のチェック活動を実施など
発表回数を増やすために、ポイント制を導入し、班全員が発表した回数をカウント
- ・宮中生全員のより良い学校生活実現を目指し、各委員会で具体策を話し合い、決定し、実践した。
学習：学習についての学級会・イベント開催 給食：給食中のインタビュー、掲示物作成
体育・環境：スポーツ day の開催（学級・学年・男女）、クリーン day（美化活動）
図書・掲示：ビブリオバトルの開催 保健：生活チェックと健康維持に関する掲示物作成
- ・安心安全な学校生活実現を目指し、校則改訂に向けた話し合いを実施した。（12月～3月）

III 人権教育・ポジティブ教育の活用

- ・合唱祭や学校祭の後に、他クラスや自分のクラスメイトに「ありがとうメッセージ」で感謝の思いや相手の頑張ったところを書いて交換した。（6月、9月）
- ・2年生対象に、町保健事業の「心の健康づくりセミナー」を活用し、『ストレスの仕組みや対処法・SOS の出し方』について学び、安心した生活を送るための知恵の一つを学んだ。（6月）
- ・スクールカウンセラーによる全員面談を実施し、相談しやすい環境をつくった。（6、7月）
1学期は3年生、2年生は2学期に実施、1年生12月～1月にかけて実施予定。
- ・教員対象にスクールソーシャルワーカーを講師に招き、「不登校対応について」の研修を実施。不登校対応の概論と、本校生徒についての対応のアドバイスをいただいた。（8月）
- ・1年生で「自分の強み」を知るポジティブ教育を行った。（11月）



【ありがとうメッセージ掲示】

IV 望ましい生活習慣の定着

- ・養護教諭とスクールカウンセラーによる個人健康観察表を毎日実施し、その情報をもとに教育相談やスクールカウンセラーとの面談につなげるなどして問題の早期発見、早期対応に努めた。
- ・委員会による生活チェックやクイズ、朝の個人健康観察による生活習慣チェック（早寝早起き朝ごはん）などを通して、自分自身の生活を振り返らせた。
- ・食育に関する資料や栄養教諭も参画する授業を通して、効果的な食事のとり方について学ばせた。（2年11月・3年12月）
- ・メディアの適切な利用の啓蒙のために、以下の取り組みを行った。
 - ①生徒集会において、生徒指導主事からメディアの使い方や SNS の危険性について指導し、Home & School でも指導内容を知らせ家庭でのさらなる協力を依頼した。（11月）
 - ②「我が家のメディアルール」を生徒と保護者で作成し、学期末に振り返りを行った。（年間4回）
- ・学校防災ボランティアをお招きして避難訓練に立ち会い、指導助言をいただいたことで、防災意識を高める機会となった。（11月）

2 目標の達成状況

アンケート結果	①… A 53 B 40 (93) C 7 D 0 (%)	評価	A
	②… A 62 B 37 (99) C 1 D 0 (%)	評価	A
	③… A 66 B 30 (96) C 4 D 1 (%)	評価	A
総合評価	A		
総 括			
①に関して 中間評価時と比べ、肯定的評価は93%と高い数値を維持、A評価と答えた生徒は49%から53%に上昇し、目標のA評価の50%以上を達成することができた。年間を通して、学年や学校行事、生徒会活動を生徒が自己決定する機会と捉え、実践してきた成果であると考え。生徒の中においても、主体的に取り組む姿勢や姿が共有され、主体的に取り組む雰囲気が醸成されてきたように感じる。			
②に関して 中間評価時と比べ、肯定的評価は98%から99%と増加した。また、A評価をする生徒も59%から62%と上昇した。年間計画の中に各学期2回以上の学級会の時間をしっかりと確保し、クラスの課題とその解決策を話し合ったり、安心・安全な学校を目指して、全校生徒で校則について話し合いをしたりと、対話する場を積極的にとった成果だと考えられる。			
③に関して アンケートの結果を見ると、A評価は66%、肯定的評価も96%で目標に達している。今後も引き続き、生活日記や各種活動の振り返りを行い、生徒の様子に対してアンテナを高くして指導していきたい。SCとの全員面談も継続中であり、相談しやすい環境づくりに今後も心掛けていきたい。			
改善策			
①②に関して ①に関して、いかにB評価の生徒をAにするかが中間評価時の課題であった。当事者意識を持たせるために、話し合いの場でしっかりと全員が意見を持って発言するよう促す指導を行ったことで、目標であったA評価の生徒50%以上を達成することができたと考える。今後とも、自己決定の場の提供と、対話を通じた合意形成の両輪を大切にしていきたい。			
③に関して 否定的評価の生徒に対し、引き続き声かけや面談などの機会を設け、改善に努める。メディア使用に関しては、我が家のメディアルールの振り返り、全体指導、そして校則改訂会議を通して、家庭と連携しながら指導を継続していきたい。			